木質バイオエネ利用　「一口メモ」

文責　　沢辺　攻

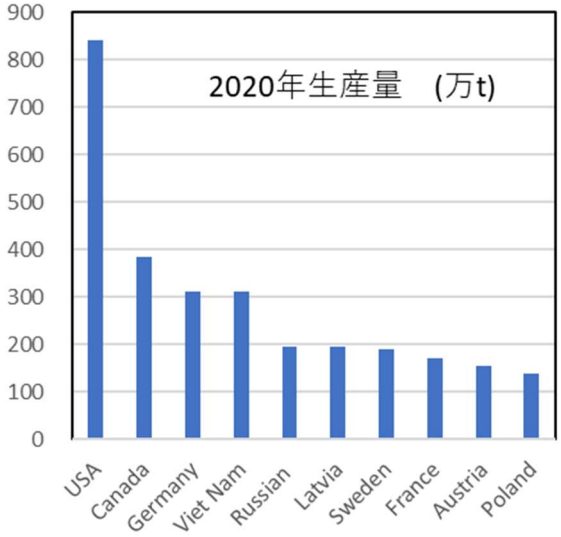
4.　木質燃料の生産（4）

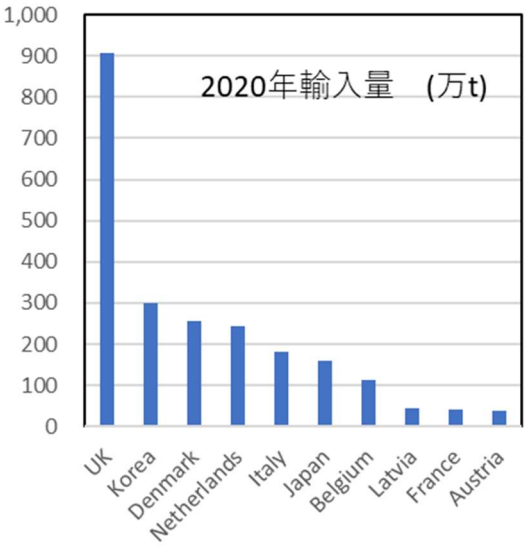
世界の木質ペレット需給構造

1980 年代の第一次ペレットブームが去ってから約 10 年、1990 年代末から木質ペレットの生産が徐々に回復し、欧州の木質ペレット市場は、スウェーデン、デンマーク、オーストリア、ドイツ、イタリア、フランスなどを中心に広がりを見せ、カナダ、米国をも巻き込んで急激な発展を見せている。FAO によると世界のペレット生産量は、2012 年の 1,815 万 t から毎年増大を続け 2020 年には 4,300 万 t にまで達している。このような急激な伸びには、CO_2 排出量削減を目指した発電分野での需要増も大きく関係している。

主な生産地域はヨーロッパと北米で、最近ではベトナムを主体に、アジア地域で急速な成長を続け、2020 年の生産量ランクは米国、カナダ、ドイツ、ベトナム、ロシアと続き、日本は 12.5 万 t で 40 位となっている（下図参照）。

また European Pellet Council の調べによると 2018 年の消費量順位は英国（854 万 t）、韓国（363 万 t）、イタリア（330 万 t）、デンマーク（264 万 t）、米国（264 万 t）の順で必ずしも生産と消費がバランスの取れたものとはなっていない。これは国によって消費構造に差異がみられるためである。例えば英国、韓国、ベルギー、オランダ、日本などでは発電需要でそのほとんどを輸入に頼っている（下図参照）、スウェーデンやデンマークでは熱電併給（CHP）需要がメイン、イタリアやアメリカなどは暖房用ストーブが中心、ドイツ、オーストリアなどでは地域暖房のボイラが中心などお国の事情によって需給構造に特徴があり、それらの過不足を補う形で国境を越え、さらに大陸をまたぐ取引がごく普通に行われている。これもエネルギー密度が高く長距離輸送に耐えられるペレットの特性と言える。





資料：FAOSTAT/Forestry Production and Trade/Pelletにて検索